

道徳科学習指導案

主題名「自分に正直に」〔学指要領：A 正直、誠実〕

第3学年

I 主題設定の理由

1 価値観

本主題は、小学校学習指導要領「特別の教科 道徳編」の内容 A 正直、誠実「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。」に基づくものである。

自分自身に正直であることは、児童が健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするために必要であると考えられる。なぜなら、うそを言ったり、ごまかしをしたりすると他者の信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔が生じ、明るく楽しい生活とかけ離れてしまうからである。

しかし、この時期の児童は自分自身が責められたり、不利な立場に立たされたりすることを回避しようとしてうそを言ったり、ごまかしをしたりすることがある。

そこで、正直であることのよさに気づき、自己の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けようとする意欲を養うことが大切である。

また、この内容項目は、第4学年での学習を経て、第5学年及び第6学年において「誠実に、明るい心で生活すること」へと発展する。

2 児童観

本学級の多くの児童は、これまでの学習や日常生活の様子から、周りの子がふざけていたり、学級全体でできていないことがあったりすると、周りの子に注意やサポートができ、自分が正しいと思ったことを実践する大切さを理解している。しかし、自分の過ちになると、自分を守ろうとして、ごまかそうとしたり、言い訳やうそをつこうとしたりする児童が見られる。

これらのことから、本授業を通して、自分が悪いことをしてしまったと思ったときは、ごまかさず、素直に過ちを認めて、自分に正直に明るい心で生活しようとする道徳的実践意欲と態度を育てたい。

3 教材観 教材名「まどガラスと魚」(出典：日本文教出版「生きる力3」)

千一郎(主人公)は、友達とキャッチボールをした際に、おじいさんの住む家の窓ガラスを誤って割ってしまうが、「謝らなきゃいけない」と思いつつもその場から逃走してしまう。罪悪感が残ったままの千一郎であったが、自分が飼っているねこが人の家の魚を食べてしまったことに対して、丁寧に謝罪しているお姉さんと関わり、自分も正直に謝罪するべきだと気づき、おじいさんに謝罪をしに行くというあらすじである。

本教材は、主人公の葛藤場面や気持ちの変容が分かりやすく描かれているので、価値の実現の難しさに触れて人間理解を深めることができる教材である。

そして、素直に謝った主人公と自分自身を重ねて考えることで、自分が悪いことをしてしまったと思ったときは、ごまかさず、素直に過ちを認めて、自分に正直に生活しようとする大切さに気付くことができる適切な教材となっている。

II 本時の学習

- ねらい 葛藤しながらも自分の過ちを謝罪した千一郎の心情を踏まえて、自分だったらどうするかを考える活動を通して、素直に認められないときの後ろめたさや苦しさ、素直に過ちを認めたときの心の明るさに気づき、自分に正直に生活しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される児童の意識「S」	○指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分) S：正直に生活した方が良いと分かっているけど、ごまかしたくなるときがあるかもしれない。</p> <p><めあて> 正直に生活するためには、どうすればいいだろうか？</p>	<p>○正直に生活できていないことについて再認識し、自分事として問題意識を高められるよう、事前アンケートの結果を提示したり、ごまかすことの善悪について問いかけたりする。【★提示】</p>
<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。(5分)</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(20分)</p> <p>◎あなたなら、千一郎と同じように自分の過ちに対して謝ることはできますか？</p> <p><できる・できるかもしれない> S：謝らないとモヤモヤするから。 S：自分に正直でいたいから。</p> <p><できない・できないかもしれない> S：怒られたくないから。 S：まだ気付かれていないから。</p> <p>◇気づかれなかったら謝る必要ないのかな？</p> <p>S：誰がやったか分からなければいいかな。 S：でも、モヤモヤするから謝る。 S：素直に謝ると気持ちがスッキリするから謝る。</p> <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(5分) S：ごまかさず、素直に謝ることが大切だ。 S：素直に謝ると気持ちいいから、自分のためにも謝るべきだ。</p>	<p>○児童が教材文の内容を捉えやすいよう、範読前に登場人物やおおまかな内容を確認する。【★提示】</p> <p>○正直に謝るか葛藤する主人公の気持ちを考えられるように、場面で区切りながら問いかける。</p> <p>○自分事として自覚を高めながら価値理解を深められるよう、自分だったらどうするかを問いかける。</p> <p>○道徳的価値を実現することの難しさを深く考えられるよう、逆の立場の考えについて、どう思うか問いかける。</p> <p>○正直であることのよさについて考えを深められるよう、補助発問で「気付かれていなかったら」という条件を付けて問いかける。</p> <p>○児童の本音が引き出せるよう、事前アンケートや日頃の言動を振り返り、本当に謝れるのかを問いかける。</p> <p>○行動面だけの考えにならないように、理由についても問いかける。</p>
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。(10分)</p> <p><振り返り> S：今までは、自分で悪いことをしてしまったときに、ごまかそうとしてしまった。今日改めて、正直に生活するためには、わざとでなくても、いけないことは素直に認めることが大切だと思った。これからは、いけないことをしてしまったら、ごまかさず素直に反省して、正直に生活していきたいと思った。</p>	<p>○よりよい自己の生き方への思いや願いを明確に振り返れるよう、今までの自分、これからの考えや行動について気付いたことを記述するよう促す。</p>

◆評価の視点

- ・ワークシートや発言から、「正直に生活することの大切さについて、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。
- ・ワークシートや発言から、「自分の過ちを素直に認めることの大げさについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。